

靴が人体におよぼす影響 — 外反母趾の実態調査 —

福島大教育 田口 秀子 信州大医学○河本 美智子
 東京家政大 ト部 澄子 石尾 清子

目的 女性の靴は、そのデザインやヒールの高さ等から、男性の靴に比較して足の健康におよぼす影響が重視され、健康はきものが数多く出廻っており、外反母趾を治療する器具なども出現している。これらの実状をふまえて、外反母趾がどの様に認識されているのかまた、外反母趾は女性にのみ出現するものであるのか、その実態調査を行い検討を行った。

方法 18才～22才までの女子学生を対象としてアンケート用紙を配布し、本人を含む家族とその周囲に生活する人の29名（男9名、女28名）より回答を得た。アンケートの内容は、外反母趾の知熟度、外反母趾であるか否かの状況、原因、処置、及び要望等で、性別、年齢別に集計した。その結果はマークシートにより福島大学情報処理センターにて解析を行った。

結果 外反母趾の知熟度は50.4%であるが、26.7%は知らない、8.5%はよくわからないとしており、4.2%の人は外反母趾になりそうだと気にしている。これに対し外反母趾である人は8.3%で、外反母趾になった原因はきつい靴をはいたから4.6%、つま先のきつい靴をはいたから6.9%で、はきものが原因であることもあげている。また、左右どちらかが外反母趾である人より、両足が外反母趾である人の出現率は高く、外反母趾は左右同時に影響をうけることも明示している。外反母趾になった年齢の自覚は低いが、16～20才であると回答した人は46.2%であった。性別では男女共左右のどちらかが、あるいは外反母趾である人はほぼ同率で男女差はみられない。この点から見ても外反母趾は女性にのみ出現するものではないということが明らかになった。